

名古屋大学大学院医学系研究科・国際保健医療学・公衆衛生学（旧公衆衛生学）教室の実施する「生活習慣病予防に関する職域コホート研究（愛知職域コホート研究）」データを「慢性腎臓病の予後に関する国際共同研究」において利用する計画について

#### 【研究の背景】

腎臓は体内の老廃物を排出するのみではなく、ミネラルバランスの調節、赤血球の生成や血圧の調整に関与するホルモンを産生する重要な臓器です。血液中のクレアチニン濃度は腎機能が低下すると上昇し、老廃物を体外へ排出する能力が低下していることを示しています。またタンパク質は腎臓でろ過されないため正常であれば尿中には出現しませんが、腎障害があると尿蛋白が陽性になります。血液クレアチニン濃度の中等度以上の上昇やタンパク尿などの腎障害を示す検査異常が 3 カ月以上持続する状態を慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease: CKD）と呼ぶ新たな概念が、近年提唱されました。日本においても成人の約 13%が CKD を有していると推測されています。CKD はその後の総死亡、心血管疾患、腎不全のリスクを高めるため、世界各国で研究が精力的に進められています。

#### 【共同研究の内容】

この度、CKD と死亡や心血管疾患との関連を精密に検討する国際共同研究が計画されました。この「CKD の予後に関する多施設共同研究（CKD Prognosis Consortium: CKD-PC）」は、米国のジョンズ・ホプキンス大学ブルームバーグ公衆衛生大学院のコレッシュ教授が中心となり、世界各国の大規模な疫学研究を実施している 50 施設程度が参加を予定しています。本共同研究において、CKD の診断基準が再検討される他、年齢、性別、人種、基礎疾患の有無によって、CKD の予後に対する影響が異なるかどうか調査されます。

#### 【共同研究への参加】

私どもが実施している愛知県内の某自治体に勤務する公務員を対象とした追跡調査である愛知県職域コホート研究も CKD-PC 参加条件を満たすことから、協力の依頼を受けました。国際的な基準を定める際、我々アジア人（日本人）データを提供する意義は極めて大きいと言えます。また、日本での CKD 予防への応用、さらには患者個人の腎機能をより精細に評価し、予後を予測するといったオーダーメイド治療にも繋がる可能性を秘めていることから、CKD-PC に参加協力していくこととしました。

#### 【具体的な手順】

今後、これまで蓄積されたデータの一部をジョンズ・ホプキンス大学へ送付し、解析を行ってまいります。しかし、個人情報は一切送付されません。またデータの管理は、これまでと同様、名古屋大学大学院医学系研究科国際保健医療学・公衆衛生学教室にて厳重に行われます。

### 【研究期間】

倫理審査承認後から 2014 年 3 月 31 日

(ただし、論文作成や統計解析はその後も続く場合があります。)

### 【研究にご協力頂いている皆様へ】

CKD-PC への参加に際して、今まで愛知職域コホート研究に協力頂いております皆さまへ 新たな負担をお願いすることはありません。また上述の通り、個人情報は一切送付されず、データの管理には今までと同様厳重な配慮がなされます。さらに、研究の重要性、迅速な実施の必要性を考慮し、今までにご協力頂いている皆さまから CKD-PC 参加に関するご意向を個別に確認はいたしません。ただし、参加にご賛同頂けない方のデータは送付いたしません (送付後の場合は削除いたします)。

CKD-PC への非協力のご表明、あるいはご質問、ご意見等ございましたら、下記までご連絡いただきますようお願いいたします。また、今までの同意状況の確認、さらには同意の撤回のご希望がございましたら、同様にご連絡いただきますようお願いいたします。

世界規模の共同研究を通して、慢性腎臓病の予防、治療に役立てられるような確かな知見が得られるよう、努力を続ける所存であります。なにとぞご協力のほどお願いいたします。

### 【連絡先】

466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

名古屋大学大学院医学系研究科 国際保健医療学・公衆衛生学 (旧公衆衛生学) 教室

電話 : 052-744-2128 Fax: 052-744-2131

電子メール: p-health@med.nagoya-u.ac.jp